

「必要な人に支援を」

RCが生活再 建資金を支給 赤崎、綾里の被災世帯へ

大船渡

大船渡市の大船渡、大船渡西ロータリークラブ(RC)は24、25の両日、大規模林野火災で被災した世帯への生活再建資金の支給手続きを行った。全国のRC、RC会員個人らが寄せた善意を配分するもの

で、会員らは東日本大震災の経験を生かし「必要とする人に必要な支援を」との思いで生活、なりわいの再建に向かう被災者を後押しする。

宮城・岩手のRCで構成される国際ロータリー第2520地区(佐藤剛ガバナ

リアンに協力と呼びかけると、支援金として約7200万円が寄せられた。このうちの一部は災害義援金として大船渡市に寄付し、佐藤ガバナは「東日本大震災の経験から、支援を必要とする人のもとに公正に届けてほしい」と現場

に使い道の判断を委ね、大船渡RC(伊藤博会長)と大船渡西RC(山口徹会長)が合同で直接的な支給を決定。24日は赤崎町の大船渡市漁協本所、25日は三陸町綾里の綾姫ホールで支給手続きが行われた。

支援金は、全壊、大規模半壊、中規模半壊、半壊世帯に一律50万円、準半壊と一部損壊世帯に一律20万円を支給。口座振込での支給とし、RCの思いに賛同した岩手銀行は、これにかかる振込手数料を無料にするなどして取り組みをバックアップする。

25日の綾姫ホールでは、手続き開始時間から住民らが申請に訪れ、両RCの会員らが誘導や受け付けにあたった。

手続に訪れた小路地域の熊谷将総さん(47)は、火災で住宅が一部損壊し、ワカメ加工の資材や刺し網漁などの漁具と、これらを保管していた倉庫が全焼。住宅は補修して住める状態に戻ったが、仕事道具を全て失った。「ここから生活、なりわいを再建していくうえで、こうした支援金はありがたいの一言に尽きる」と感謝を示した。

RCではこのほか、被災が大きかった綾里地区の3事業者に、事業再生資金を支給。アワビの生産販売を手がける元正榮北日本水産(株)の古川季宏社長(56)、ウニやアワビなどの水産加工業・中島商店の中島幸治代表(66)、菌床シイタケ栽培を営む館脇一人さん(56)に佐藤ガバナが目録を手渡し、地元産業の復活に願いを込めた。

佐藤ガバナは「震災を経験した地元のRCの力で、公正にいい視点での取り組みにつなげてくれた。仮設住宅への入居も始まったタイミングで、生活に必要なものを買ったり、気分転換に使った方がいい。ここからもう一度頑張っていこう」と被災された方々の心に灯がともれば、このお金は生きたことになる」と話していた。

首長日程

(27日)

建や早期森林再生への願いを込めた。

寄付には、古竹理事長のほか、さださんと長年交流がある勝雅行さん、盛岡市、(株)吉田測量設計相談役

さださんの思いとともに

風に立つ
イオン基金

大船渡市に見舞金寄付

公益財団法人風に立つイオン基金

長は23日、大船渡市大規模



生活再建資金の支給手続きに対応するRCの会員ら「綾姫ホール」(電子)